鹿児島県看護協会が発行をしている 「看護かごしま Vol.167」に 当法人のよしの訪問看護ステーション 所長 横尾智子さんが掲載されました。

看護かごま

Nursing (S)
Kagoshima



http://k-kango.jp

2017. Spring Vol. 167

Vol.167

Nursing Kagoshima

2017.4

○ 訪問看護における人材活用試行事業の成果

医療法人明輝会 よしの訪問看護ステーション 所長 横尾 智子

1. 事業の趣旨

地域包括システムの整備が急がれている中、訪問看護に携わる看護師の確保・育成・活用策が大きな課題となっています。一方病院においても在宅復帰支援機能の強化が急務であり病院看護師には、利用者の退院後の在宅療養ニーズ及び在宅でのサポート資源を理解し、円滑な社会復帰支援を行うことが求められています。今回の事業で、鹿児島市立病院の救急病棟看護師が平成28年10月~12月、よしの訪問看護ステーションに出向し、訪問看護に従事しながら知識・技術を学び院内での看護ケアや退院調整における在宅支援能力の向上につなげるとともに、出向看護師を受け入れるステーション側にも、出向期間におけるマンパワー支援の提供をめざすものです。

2. 実施状況

医療依存のある利用者が在宅で療養するイメージができにくいと考えられることから、本事業を通し、医療依存がありながらも在宅で様々な社会資源を活用し、継続した医療と介護を受けながら地域で生活していることをイメージできる人材を育成する目的とした。出向看護師は、1か月で、乳幼児から高齢者、末期がん、難病、精神とすべての利用者が自宅でサービス受けながら過ごしている事、更に施設にも全介助の利用者、看取りの利用者がいることに驚いている。2か月では、単独訪問を行い利用者の生活の場で「その人らしさ」を大切にしながら訪問看護の実際を体験している。3か月では、利用者が安心して退院できる状況は何か、利用者は何を望んでいるか自己決定支援について学んでいる。

3 成里

出向看護師を受け入れ、訪問看護を伝える意識やモチベーションが事業所内で高まった。また、人員に余裕が生まれ、新患への対応、複数名訪問、緊急時訪問などコスト面にも繋がった。事業を実施し、生活をイメージできる人材を育成し活用したことで、事業収益にもなった。今後、育児休暇から病院復帰でなく居住地の近くにある病院のステーションへ出向扱いで勤務し、その後に病院復帰やそのままステーション勤務するなど人材活用もいろんな形があって良いのではと考える機会となった。

